

きんもくせい

令和2年 学校教育だより

July 7 第345号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



進級おめでとう！

写真提供／みずほ台小学校

「さいかいした 学校」

関沢小学校5年

山本 真緒

間にあうかしんぱいな集合

ドキドキ

ひさしぶりにあうともだち

ドキドキ

はじめての教室

ドキドキ

新しい先生

ドキドキ

新しい いす つくえ

すべてに いちねんかん

よろしくね

年度初め、生徒に「国語で身につく力はどんな力？」という質問をします。すると、『表現力』や『想像力』などという答えが返ってきます。国語を「日本語の学習」として考えた場合、日本語を母語として育った者ならば、日常生活の中で自然に習得でき、他教科ほど勉強しなくても「なんとなくわかる」と感じることも多いかもしれません。しかし、「月」を表すにも「十六夜」「居待月」という言葉があったり、感情を表現する場合も「嬉しい」という言葉ではしっくりこない時「喜色」や「痛快」といった言葉を使用したりします。つまり日本語には、一つのことを表現する際に様々な「言葉」がふれており、時間や季節、その時の状況によって、ふさわしい「言葉」を選んだ方がより伝わるという特性があります。私は数ある言葉を「読める・書ける」だけで終わらせず、その意味を正しく理解し、自ら選んで「使いこなせる」力を身につけてもらいたいと考えています。だからこそ、冒頭の質問を生徒にした際、私は自分なりの考えを最後に伝えていきます。「言葉の力」と。

“言葉の力”の育成を目指して

指導者 東中学校 主幹教諭 竹内 千尋
(元 西中学校 教諭)

①多くの言葉にふれる工夫

テストを一つの区切りとし、「評価カード」というものを配布しています。表紙には自主学习の取り組み状況、見開きページには毎授業の最初に行う漢字小テストの結果と誤答直しの欄を設け、裏表紙には三〜四つ程の暗唱課題を載せています。暗唱の内容は学年の実態に合わせて設定し、教科書には記載されていない作品も選んでいます。例えば、『枕草子』は「春はあけぼの」に加え、『うつくしきもの』も課題にしました。「百人一首」を扱った時期は、生徒が自分の好きな歌を三首選び、

それらを暗唱しました。さらに、学期に一回行っています。ただ、絵本等を見せながらの読み聞かせでなく、生徒も文章を目で追いつながりながら読んでいきます。東野圭吾の短編や山川方夫の『夏の葬列』を読みました。一人では読めないであろう言葉も読み方がわかり、日常生活にはあまり出てこない語句や言い回しを知る機会にもなります。

実施方法
①この冊子を持って、先生のところまで来る。用紙がない場合は自分で作る。
②1つの項目に3冊までチャレンジできる。1冊目から1冊目まで1冊だけが良い。
【評価基準】
A・・・すらすらとリズムよく読める。
B・・・数回つかえる。少し止まってしまふ。
※1・2は全員必修です。題名、作者名も暗唱しよう。

1	土佐日記	A B C	A B C	A B C
2	小倉百人一首	A B C	A B C	A B C
3	万葉集	A B C	A B C	A B C
4	古今和歌集	A B C	A B C	A B C

※1 土佐日記 紀貫之
※2 小倉百人一首 天の香具山
※3 万葉集 持統天皇
※4 古今和歌集 天の香具山

②学び方の工夫

指導するに当たり、「何を学ばせるか」というゴールを明確にすることは大切ですが、それと同時に「どのように学ばせるか」という過程の部分にも工夫がなければいけないと考えています。

類義語や対義語を学習した際、それがどのような言葉なのかを理解することに加え、より多くの言葉を知る時間を取りました。しかし、単純な暗記では面白みがありません。そこで、約一四〇ペアの語をカードにし、トランプの神経衰弱やババ抜きを要領で用い、まずは楽しみながら言葉とふ

“言葉の力”の



れ合いました。次に、理解した言葉を活用できなければなりません。しかし、生徒は作文を書くとなると「書き方」で戸惑い、筆が進まない状況が多々あります。そこでまず、「型(方法)」を学習します。

既習の文章を真似することから始めたり、教師が例文を作ったりすることもありますが、テーマはもちろん、出だしの書き方も三通りくらい用意し、少しでも「書ける」実感を味わわせたいです。

さらに、スピーチなど発表の仕方の学習では、「はつきり」「大きな声で」という注



意点を促しても、基準があまりないで、内容が伝わりにくいこともあります。そこで、上級学年との合同授業を行い、よいスピーチを聞いたり、自分が書いた文章を、先輩に推敲してもらったりする時間を設けました。下級生は先輩のアドバイスを素直に聞く姿勢になり、上級生も教えるために自分のもっている術を最大限に発揮しようとして、そして、できあがった作文等はできるだけ多くの目に触れられるようにします。他者の作品がどうであるかという関心は次の課題へつながります。また、自分の中にはなかった「言葉」を知るチャンスでもあります。

わかる授業

西中学校 前校長 児玉 亮一

日々国語科の授業実践に取り組む竹内教諭の授業は「うまい授業」か「よい授業」かと問われるなら、私は間違いなく「よい授業」であると断言できるのです。

そこには、学ぶ主体である子どもたちが自ら学ぶ興味を見だし、子どもたちにとってわくわくするような学習活動を通じた取り組みが見られるからです。

教科の目標に迫る学習活動は、教師により様々な工夫があります。

自分の授業は、子どもたちにとっても学ぶ価値のある内容を実現させようとするものか、どうかを絶えず自問し、授業を組み立てる姿勢が見事なのです。

特別支援教育

小中交流会で滑らかに

本郷中学校 柴崎 美架

今年度の本郷中特別支援学級は七名の新生を迎え、三名の三年生と共に十名でスタートし、クラス数も二クラスになりました。コロナウイルスの影響でいつも通りの新学期とはいかず、普段よりも緊張の新学期となると思われましたが、昨年度、特別支援学校小中交流会を行い、新生も在校生もお互いに顔を知っているため、新学期も滑

動かし、野菜の観察をしたり、国語や数学の学習を進めたり、自己紹介カードを書いたりしながら学習を進めています。一年生は少しずつ笑顔が増え、制服の着替えなども慣れてきました。三年生は昨年度植えた野菜の収穫を笑顔いっぱいで行い、校長先生や教頭先生に紹介しました。短い時間の中で、生徒たちは一生懸命頑張る姿を見せています。これからの学校生活も楽しみます。



③終わりに

五十分という限られたコマの授業の中で身につけられる力はそんなに多くはありません。しかし、生徒にとって貴重な五十分であり、成長

生きる力をはぐくむ

富士見台中学校 保護者 大塚 正己

我が家の子どもたちは、市内の小学校に通い、中学校を卒業しました。学校において、学力や食事、共同生活、体力とご指導いただき、楽しく過ごさせていただきました。家庭においては、今日学校で過ごしたことを聞いたり、これからの行事について話したりします。

その中でもテレビ等で配信されたニュースを取り上げて、自分たちに置き換えて考えたり、話したりしています。今世の中ではマイナスの出来事が多くありますが、それに対してそれぞれの年齢や現状を踏まえ、考えていると思います。

家庭で生きる力をはぐくむために、それぞれの年齢や環境に応じて子どもたちが各々経験していることを通して、大切なことを伝えたいと思います。大人になる上で自分だけでは成り立たず、周りの人に支えてもらっていること。一人で決断すること。自身をアピールする（伝える）こと。これらから大切な



ことがその子なりに、伝わってくればと思っています。今の時代、携帯電話等を利用して、インターネットの中で会話する、相手に何かを伝えることが中心になっているので、直接対話以外にも力を得る必要があると思います。春先の臨時休校を経験した世代であり、九年前の同時期にも通常ではないことを経験した世代です。この経験を糧に、他の人よりも『生きる力』をはぐくんでくれると思います。これからの楽しんで過ごして欲しいと願います。

また歌以外にもいろいろな楽器を演奏します。特にお琴は先生を招き、本格的に教えていただけました。お琴と並んで座る子どもたちはしとやかに、普段聞くことのない音色は新鮮で、演奏会で披露した「ゆくら」を聞いた私はのちに満開になる鶴瀬小の桜を見るのが楽しみになりました。六年生はみんなをまとめる立場です。「自分が」とならず、同級生みんなと一緒にやっっていくと意気込む長女のこの先が楽しみです。そして次女もすでに合唱部



に入ると言い、まだまだ家で合唱が続きそうです。

伝統を受け継いで

針ヶ谷小学校

針ヶ谷小学校

本校では、毎年一月に「針ヶ谷小郷土かるた大会」が開催されます。子どもたちはもちろん、保護者や地域の方々も楽しみにしている学校行事です。十二月に入ると、あちこちのクラスから、かるたを読む声が聞こえます。

このかるたは、開校の翌年に「子どもたちに愛校心と郷土愛を育んでほしい」という願いのもとに作られました。昭和六十年の第一回大会以来、

ずっと続いている伝統行事です。学年ごとに、団体戦と個人戦が一回ずつ行われ、しーんとした中で、読み手の声とかるたをとる音だけが体育館に響きます。一年生に入学すると、まず、かるたを購入し、真っ白の絵札に色を塗って、自分のかたを作ります。学年が上がるにつれ、最初の文字を聞いて取れる札も増え、あちこちで白熱した戦いが繰り広げられます。



これからの、この伝統行事を通して、針ヶ谷小学校の子どもたちに愛校心と郷土愛をはぐくんでいきたいと思っています。

教育課題特集

生きる力をはぐくむ

～学校・家庭・地域から～

「あいさつ・くつそろえ・もくもく清掃」

水谷小学校

私たち水谷小学校では、「あいさつ・くつそろえ・もくもく清掃」を、水谷小 三つのじまんにかけ、誰もがそう思えるように、日々、取り組んでいます。その中のあいさつの充実に向けて、「朝から元気にあいさつをしよう！」とがんばっています。

その活動の一つとして、毎学期、クラスごとに「おはようございます！」で友達を迎えるあいさつ運動をしています。日替わりで全部のクラスが担当するので、その期間は正門のあたりがいつも以上に賑やかです。子どもたちが進学する水谷中学校、本郷中学校の先輩が来て一緒にあいさつをしてくれることもあります。

これからの、元気なあいさつが響き合う水谷小学校になるように取り組み、地域の皆にがんばっていきます。



令和2年1月の様子

声を合わせて

鶴瀬小学校 保護者 木庭 加代

私には小学校六年生と幼稚園年長の二人の娘がいます。二人とも歌うのが好きで、長女は小学校の合唱部に入っています。

合唱部は三年生から六年生の約二十五名で活動しており、夏のNHK合唱コンクール全国大会出場を目標に、夏休みも連日練習です。暑い中でも、目標に向かって合唱部一丸となり、練習に励んでいます。

合唱はただ声を出せばいいものではなく、パート毎に分かれ、どうしたらよいか意見を出し合っています。指摘もしますが、お互いによいところを言い合うと、やる気が出て、目標を共有し、気持ちよく練習ができると思います。家でも歌うので、次女と私も覚え、私には違うパートを教えてください、家でも合唱が始まります。

公民館の日常から

鶴瀬公民館館長 冨塚 一資

鶴瀬公民館は、鶴瀬小学校と道路を挟んでのお向かいさんです。放課後や週末には、近隣の小中学生が三々五々集まっています。

コロナ禍により現在は使用できませんが、館内に談話室というフリースペースがあります。友達と一緒に学習する姿もあれば、ゲームやおしゃべりに興じる姿もあります。

そうかと思えば、館内や敷地の周りで鬼ごっこやかくれんぼが始まることもあります。たまたま見かけた時には、やんわりと「イエローカード」を出すことにしています。

以前、談話室の床を全面ピンク色に張り替えたのですが「ピンク色は、鶴瀬小学校のイメージカラーなのでですよ！」と、教頭先生にお聞きしました。偶然とは言え鶴瀬小の皆さんに、より親しんでいただけならうれしく思います。

談話室利用の際には、窓口で簡単な申込みをお願いしています。元気なお子さん、おとなしいお子さん、さまざま





勝
瀬
中

祝 入学おめでとう

4月8日、保護者に見守られながら244名の新入生(赤ジャージ)が勝中の仲間になりました。



針
ヶ
谷
小

「はやく大きくなってね！」

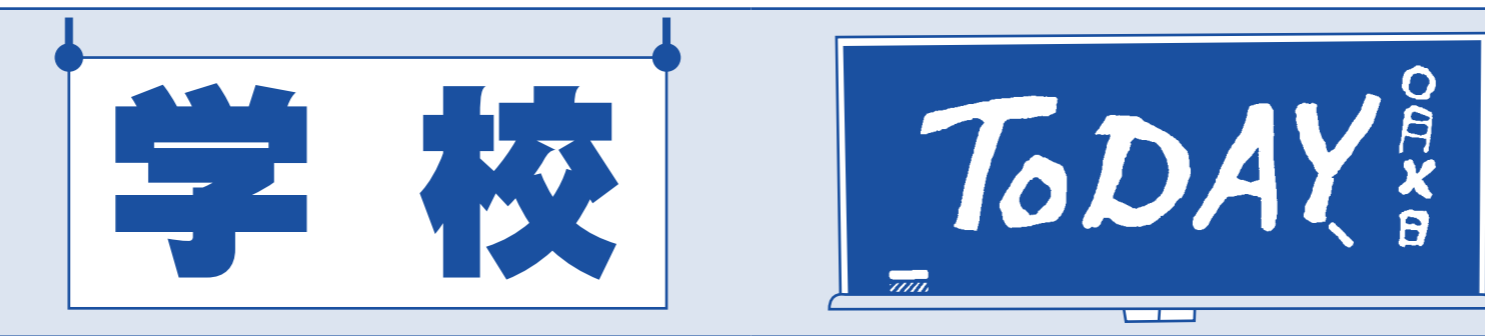
2年生の畑に、ミニトマトが植えられています。今日は、ミニトマトの観察。はやく真っ赤な実になるといいね。



諏
訪
小

令和2年度の授業が始まりました。

3ヶ月間の臨時休業が終わり、6月1日からようやく授業が始まりました。前年度の授業内容からですが、みんなで勉強することを待ち望んでいました。



関
沢
小

再生に向けて奮闘！学校ファーム

改修工事で使えなかったファームを再生するため、高学年を中心に耕したり雑草を抜いたりと奮闘しています。



水
谷
東
小

学校の中でお米を作ろう！

地域の方にご指導をいただきながら5年生が田植え体験をしました。田んぼに足をとられながら、一生懸命に稲を植えました。今から収穫が待ち遠しいです。



東
中

新しい先生と生徒との出会い

初めての担任と生徒との出会いの瞬間。担任が奏でるフルートの音色とこれから新しいクラスがどのような音色を奏でるか、とても楽しみです。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入学式・始業式は、対策を講じた上で実施されました。六月からは、分散登校を経て、通常通りの登校再開になりました。久しぶりに聞こえる子どもたちの明るい声や元気な姿に、教職員一同、嬉しい気持ちでいっぱいです。学校としては、子どもたちの体調面にも注意を払いながら、学習面、生活面ともに充実したものになるように、教職員が全力で支援していきます。この学校TODAYでは、各学校の特色ある活動を紹介します。子どもたちの生き生きとした活躍を是非ご覧ください。



勝
瀬
小

分散登校期間中の一斉下校の様子

全校児童の安全確保の他、班長のリーダーシップとそれ以外の子どもたちのフォロワーシップの育成につながっています。



み
ず
ほ
台
小

夏野菜の収穫が始まりました

地域の方から借りている畑で多くの野菜を育てています。とうもろこし、レタス、トマト…。おいしい野菜ができますように。



西
中

学校生活でも「ゼロ密」を意識して

6月からクラスを半数に分けての分散登校が始まりました。3ヶ月ぶりの授業にも生徒はみんな意欲的に取り組んでいました。

!!市教育相談室より!!

『教育相談Q&A』

Q「あすなろ」ってどんな教室？

A「あすなろ」とは、富士見市教育相談室(富士見特別支援学校三階)に設置されている適応指導教室の名称です。この教室では、市内の小・中学校に在籍しているものの、さまざまな理由から登校していない、または、欠席がちになっている児童生徒に対し、社会的な自立に向けた支援をしています。

「あすなろ」は、午前九時から午後二時三十分まで開室しています。本人の意思を尊重しながら、個々の状態に応じて通い方や過ごし方を保護者の方と一緒に考えていきます。

「あすなろ」では、様々な体験活動や遊びを通じて情緒の安定を図り、小集団による人と人との関わりを通して、自主性を支援していきます。また一人一人の学力に応じた学習支援を進め、学習の遅れやつまずきの解消を目指しています。

〈今年度の開室期間と主な体験活動〉

一学期 六月一日から七月十七日

始業式、花の苗植え、ピーマン・プチトマト・キュウリなどの栽培、終業式等

二学期 八月十八日から十二月十五日
始業式、難波田城公園内古民家の体験活動、宿泊体験活動、流しそうめん、遠足、おにぎりパーティー、調理実習、クリスマスパーティー、終業式等

三学期 一月六日から三月十二日
始業式、避難訓練、もちつき、通室修了証書授与式等

*通年、軽運動や卓球等もできます。
*例年、右のような行事を行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、行事の中止や変更をすることがあります。

学習や体験活動に加え、お子さんの状態に配慮しながら、学校復帰や社会的な自立に向けて様々な取組を行っています。

通室を希望する方は、担任の先生に申し出ていただくか、本室まで直接ご連絡ください。

(問合せ) 富士見市教育相談室

TEL 0491253153 13

(担当者) 指導員 門田・松丸・白澤

教育委員会だより

令和2年度 夏季休業・冬季休業期間の変更のお知らせ

一部変更になりますので、ご確認ください。

I 夏季休業短縮

- 1学期終業式 令和2年7月31日(金)
- 夏季休業 令和2年8月1日(土)～
令和2年8月17日(月)
令和2年8月24日(月)
(富士見特別支援学校)

- 2学期始業式 令和2年8月18日(火)
(市内小・中学校)
- 令和2年8月25日(火)
(富士見特別支援学校)

II 冬季休業短縮

- 2学期終業式 令和2年12月28日(月)
- 冬季休業 令和2年12月29日(火)～
令和3年1月5日(火)
- 3学期始業式 令和3年1月6日(水)

令和2年度の学校教育だより「きんもくせい」の編集委員の先生方をお知らせします。今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現を求めて編集に携わっていただきます。

《編集委員長》	辻 幸 恵 (針ヶ谷小学校校長)
《編集副委員長》	高 原 剛 (諏訪小学校教頭)
《編集委員》	富 田 香 織 (水谷小学校教諭)
	沖 朋 子 (南畑小学校教諭)
	廣 瀬 広太郎 (東中学校教諭)
	福 井 智 子 (勝瀬中学校教諭)
	新 井 孝 之 (富士見特別支援学校教諭)

☆新型コロナウイルス感染症対策として☆

外から教室等に入る時やトイレの後、給食(昼食)の前後など、こまめに手を洗うことが重要です。ご家庭でも、手洗いの励行をお願いします。

正しい手の洗い方

① 流水でよく手をめらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

② 手の甲をのぼすようにこすります。

③ 指先・爪の間を念入りにこすります。

④ 指の間を洗います。

⑤ 親指と手のひらをねじり洗います。

⑥ 手首も忘れずに洗います。

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう

【出典：厚生労働省ホームページより】

さて、六月のある日の夕方ふと空を見上げると、まん丸の月が赤く輝いているではありませんか。アメリカでの満月の呼び名は、イチゴが熟する時期なので、「ストロベリームーン」。新聞のコラムに、先住民たちが月の動きを狩猟や農業の暦に反映し、すべての満月に愉快な名前をつけたという話が載っていました。(ちなみに、七月は雄鹿の角がこの時期に生えかわるので、「バクムーン(男鹿月)」。

新型コロナウイルス対応であわただしい毎日ですが、のんびりと月をながめる心のゆとりをもちたいですね。

(辻口)



運動会を間近に控えた昨年度六月上旬、六年二組では学級会を通して「一年生が楽しんで学校に行けるように、パーティーを開く」皆の絆を深めるためにクラスの旗をつく

「運動会前にこの二つを...」「運動会前には子どもたちにとって辛いだろう。」と思い、「クラスの旗は、運動会以外でも使えるものだから、作るのには運動会後でもいいと思う。」と提案してみました。しかし、クラス全員が口を揃えて「運

動会まで作りたくない」と声を上げたのです。そこまでの決意をもっていただけに驚くと同時に、決意を揺るがせるような提案をしてしまったことを申し訳なく思いました。後日、一年生とのパーティーが開かれました。もうじゅう狩り(学校行事バージョン)と学校クイズを実施しました。「この忙しい中、どこで準備したのである。」と思えるような完成度で、一年生が「学

自分たちで決めたことだからこそ

鶴瀬小学校 主幹教諭 鈴木 洋
(元南畑小学校 教諭)

校が楽しい。」と思えるような工夫がやりばめられた素晴らしい会となりました。また、クラスの旗作りも休み時間を活用して進められました。クラスの一人一人が時間をみつけては作成に取り組み、見事に運動会までに旗を作り上げることができました。旗作りを通して絆も深まったように感じます。「自分たちで決めたことだからこそ、やり遂げたい。」という意思の強さ、責任感を感じ、子どもたちのことを誇らしく思った瞬間でした。

編集後記

六月に入り、ようやく学校が再開しました。子どもたちと顔を合わせたのは、四月八日の入学式と始業式のほんの少しの時間だけ。ここから、今年度のスタートになりました。校門で会う子どもたちは、元氣そうに見えますが、「クラスになじめるだろうか。」「新しい友だちはできるだろうか。」「授業についていけるだろうか。」といった不安がいっぱいだろうと思います。